

| 科目番号 | 科目名 | 看護学研究特論 | | 担当教員：グレッグ美鈴、玉井なおみ | |
|---|---|----------------------------------|--------|----------------------|---------|
| 博看001 | 科目名(英語) | Introduction to Nursing Research | | 木村安貴 | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 1 | 前期 | 2 | 各研究室 | 各指定時間 |
| 1. 授業の概要 | | | | | |
| 看護学における科学の位置づけと歴史や哲学的基盤、パラダイムについて概観し、看護の知を発展させるための研究の意義を考究する。また、科学的アプローチとして、量的・質的研究、及び混合研究法の特徴と限界を理解したうえで、既存の看護学分野の研究論文を批判的・建設的に読み解く能力を育成する。さらに、看護における実践的課題の解決に資する研究手法について討議し理解を深める。 | | | | | |
| 2. 到達目標 | | | | | |
| 1. 看護研究の特徴と可能性を考究できる。 2. 看護研究における様々な研究手法の特徴を考察できる。 3. 研究課題にあわせ適切な研究方法を探究できる。 | | | | | |
| 3. 授業の計画と内容 | | | | | |
| 授業は2部構成で展開する。第1部では看護研究のパラダイムと研究プロセスを学習し、看護の知を発展させるための研究の可能性と特徴を検討する。第2部では研究デザインの設計と科学的アプローチ、クリティークの視点を学習することで、研究論文を批判的・建設的に読み解く能力を育成する。最終講義では、全体討論として、これまでの学習を振り返り、学生自身の研究テーマから研究の方向性を議論する。 | | | | | |
| 第1週 | オリエンテーション：看護学における実践と研究 | | | グレッグ美鈴 | |
| 第2週 | 第1部 看護研究のパラダイム：看護研究の哲学的基盤とパラダイム① | | | グレッグ美鈴 | |
| 第3週 | 看護研究のパラダイム：看護研究の哲学的基盤とパラダイム② | | | グレッグ美鈴 | |
| 第4週 | 研究倫理 | | | 玉井なおみ | |
| 第5週 | 第2部 研究デザインの設計：研究疑問と研究デザインの設定 | | | 玉井なおみ | |
| 第6週 | 質的研究方法① グランデッド・セオリー・アプローチ | | | グレッグ美鈴 | |
| 第7週 | 質的研究方法② 現象学 | | | グレッグ美鈴 | |
| 第8週 | 質的研究方法③ エスノグラフィー | | | グレッグ美鈴 | |
| 第9週 | 質的研究方法のクリティーク(課題レポート①) | | | グレッグ美鈴 | |
| 第10週 | 量的研究方法① 相関分析、多変量解析(重回帰分析、ロジスティック回帰分析、クラスター分析)等 | | | 木村安貴 | |
| 第11週 | 量的研究方法② データ整理、構成概念の妥当性、信頼性の検定、サンプルサイズ設計等 | | | 木村安貴 | |
| 第12週 | 看護ケアの質のアウトカム評価 | | | 木村安貴 | |
| 第13週 | 量的研究方法のクリティーク(課題レポート②) | | | 木村安貴 | |
| 第14週 | 混合研究法 | | | 玉井なおみ | |
| 第15週 | 全体討論：これまでの学習を振り返り、学生自身の研究課題を吟味し研究の方向性を検討する(課題レポート③) | | | グレッグ美鈴、玉井なおみ 木村安貴 | |
| 4. テキスト | | | | | |
| テキスト： ・Gray,J. R. & Grove,S. K. (2020). Burns and Grove's The Practice of Nursing Research: Appraisal,Synthesis, and Generation of Evidence,9th Edition,Elsevier. | | | | | |
| 参考図書： ・Creswell,J. W. (2018). Research Design, Qualitative,Quantitative,and Mixed Methods Approaches.SAGE. ・アメリカ心理学会(著)、前田樹海(翻訳)。(2011)。APA論文作成マニュアル。医学書院。 | | | | | |

| |
|---|
| 5. 準備学習 |
| ・事前に配布する資料の読み込みおよび疑問点の明確化、プレゼンテーション資料の作成および発表の準備を行なうこと。 |
| 6. 成績評価の方法 |
| ・授業への取り組み（資料の作成、プレゼンテーション、ディスカッション）および課題レポートにより評価する。 授業におけるプレゼンテーション（30%） ディスカッションへの参加度（30%） 課題レポート（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ） ① 第9週授業終了時提出（10%）、② 第13週授業終了時提出（10%）、③ 第15週授業終了時提出（20%） |
| 7. 履修の条件 |
| 特になし |
| 8. その他 |
| 必修科目であり、博士論文作成のための基盤になる科目のため、学生主体でプレゼンテーションを重ね学習を深める。 |

| | | | | | |
|--|-----------------|--|----------------|--|---------|
| 科目番号 | 科目名 | 沖縄のケアリング文化と看護 | | 担当教員：永田美和子、宇座美代子、稲垣絹代、小西清美、大城凌子、田場真由美、波照間永吉、山里純一 | |
| 博看002 | 科目名(英語) | Nursing in Okinawa Caring Culture | | | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 1 | 前学期 | 2 | 研421 | 各指定時間 |
| 1. 授業の概要 | | | | | |
| <p>地域で暮らす人々の健康を増進し、誰もが住み慣れた地域で生き生きと安心して生活を継続し、その地域でその人らしく人生の最期を迎えることができる地域の特徴を活かした看護実践の検討は重要である。本科目はまず、ケアリングに関する主要な理論を概観し、沖縄の歴史や文化的特徴から暮らしの中で育まれてきたケアリングの現象(県民性、生活スタイル、言語、祭祀等)を学習する。これらの学習を踏まえ、沖縄で特徴的な人々の健康課題について考察し、沖縄のケアリング文化を活かした看護の在り方を探究する。</p> | | | | | |
| 2. 到達目標 | | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外のケアリングの概念について多角的に考察する。 2. 沖縄の言語、風習など生活文化に根差したケアリングの現象を考察する。 3. 沖縄のケアリングがもたらす現象について考察する。 4. 沖縄のケアリング文化を活かした有効な看護について考察する。 | | | | | |
| 3. 授業の計画と内容 | | | | | |
| <p>第1週～第2週はケアリングの概念について理論を用いながら学習する。第3週～第8週は、暮らしの中でのケアリング文化の現象を専門的知見から学習する。第9週は第8週まで担当した教員とともにディスカッション(学生によるプレゼンテーションをする)を通して暮らしの中でのケアリング文化の現象を多角的に考察する。第10週～第14週は、看護実践におけるケアリング文化の現象を専門的知見から学習する。第15週は、第10週～14週まで担当した教員とともにディスカッション(学生によるプレゼンテーションをする)を通して、沖縄のケアリング文化を活かした看護について探究する。</p> | | | | | |
| 第1週 | オリエンテーション | | | 永田美和子 | |
| | ケアリングの理論① | ：国内外の文献からケアリングを考察する | | | |
| 第2週 | ケアリングの理論② | マドレーン・M・レイニンガー | 「文化ケアの多様性と普遍性」 | 永田美和子 | |
| 第3週 | 沖縄の文化とケアリング | ：暮らしと言語(沖縄語の歴史と生活) | | 波照間永吉 | |
| 第4週 | 沖縄の文化とケアリング | ：暮らしと言語(おもろさうし) | | 波照間永吉 | |
| 第5週 | 沖縄の文化とケアリング | ：暮らしとまじない(祭祀) | | 山里純一 | |
| 第6週 | 沖縄の文化とケアリング | ：暮らしとまじない(医者とユタ) | | 山里純一 | |
| 第7週 | 沖縄の文化とケアリング | ：暮らしと相互扶助：ゆいまーるの歴史と課題 | | 大城凌子 | |
| 第8週 | 沖縄の文化とケアリング | ：暮らしと相互扶助：移民、県人会、模合 | | 大城凌子 | |
| 第9週 | 討議① | ：第1週～8週までの学習を踏まえ、沖縄の暮らしの中でのケアリングの在り方を討議する。 | | 永田美和子、大城凌子、波照間永吉、山里純一 | |
| 第10週 | 沖縄の文化とケアリング | ：ソーシャルキャピタルと課題：8050問題 | | 田場真由美 | |
| 第11週 | 沖縄の文化とケアリング | ：高齢者の地域包括ケアシステムと課題：インフォーマルな交流 | | 永田美和子 | |
| 第12週 | 沖縄の文化とケアリング | ：産育文化と課題：安心した子育て支援 | | 小西清美 | |
| 第13週 | 沖縄の文化とケアリング | ：精神保健と課題：親密なつながりの中で忌避される自死をめぐる遺族支援の検討 | | 鈴木啓子 | |
| 第14週 | 沖縄の文化を基盤とした看護活動 | ：伝統文化に関連した看護実践 | | 宇座美代子 | |
| 第15週 | 討議② | ：第10週～14週までの学習を踏まえ、沖縄のケアリング文化を活かした看護の在り方を討議する。 | | 鈴木啓子、小西清美、宇座美代子、永田美和子、田場真由美 | |
| 4. テキスト | | | | | |

| |
|---|
| <p>(参考テキスト)</p> <p>吉岡恵子、広岡義之 (2011) ケアリング研究へのいざない - 理論と実践 -、風間書房</p> <p>マデリンM・レイニンガ- (2009) レイニンガ-看護論 文化ケアの多様性と普遍性 医学書院 4900 円</p> <p>*授業毎に資料及び参考文献を掲示する。</p> |
| <p>5. 準備学習</p> |
| <p>・授業毎の課題を計画的に準備すること。</p> |
| <p>6. 成績評価の方法</p> |
| <p>・活動状況 50% (評価視点: 授業へのコミットメント 20%、プレゼンテーションの適切さ 30% : 第9週・第15週)</p> <p>・レポート課題 50% : 第15週授業終了後に期日までに提出 (評価視点: テーマとの整合性, 論理的な文章構成, 言語表現の適切さ, 文献活用の適切さ)</p> <p>・合計 100点満点</p> |
| <p>7. 履修の条件</p> |
| <p>特になし</p> |
| <p>8. その他</p> |
| <p>必修科目であり, 博士論文作成のための基盤になる科目のため, 授業でのディスカッションを重ね, 看護学特別研究に活かすこと。</p> |

| | | | | | |
|--|--|--------------------------------------|--------|--------------------------|---------|
| 科目番号 | 科目名 | 沖縄の保健看護政策特論 | | 担当教員：宇座美代子、田場真由美 | |
| 博看 003 | 科目名（英語） | Nursing and Health Policy in OKINAWA | | 赤嶺 守、嘉納英明 | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 1 | 後期 | 2 | 各研究室 | 各指定時間 |
| 1. 授業の概要 | | | | | |
| <p>沖縄の保健医療看護政策の歴史の変遷を踏まえ、沖縄県の健康問題と求められる保健看護政策について検討し、社会や環境の変化を見据えた「地元創成」につながる保健看護政策について多角的に探究する。沖縄は、琉球王国時代からアジア各国との交易から形成された文化・生活習慣を持ち、大戦での壊滅的被害からの復興、米国統治下の先駆的公衆衛生活動の展開、その後の日本の保健看護政策への移行と独自の保健看護政策が実施されてきた。このような背景を理解し、健康課題を解決する保健看護政策について探究する。</p> | | | | | |
| 2. 到達目標 | | | | | |
| <p>1. 沖縄の保健看護政策の歴史の変遷を理解し、沖縄における健康問題と保健看護政策の課題について説明できる。 2. 事例を通して保健看護施策化過程の理解を深め、実践上の課題を明確化する。 3. 沖縄の健康課題への保健医療福祉の課題発見と包括的、地元創成に繋がる対策を具体的に考察できる。</p> | | | | | |
| 3. 授業の計画と内容 | | | | | |
| <p>第1週から第3週は、琉球王朝時代から第二次世界大戦後の米国統治下時代の住民の生活や健康課題を学習する。第4週から第6週は、米国統治下の沖縄の諸外国との関係、戦争の影響、沖縄全地域に駐在した保健師活動と生活を支援する政策として学習する。第7週は、第1週から第6週までの学習したことを生活と保健看護政策をテーマに担当教員と院生（プレゼンテーション実施）でディスカッションをし、地元創成に繋がる保健看護政策を実現可能性、有用性等の視点を高める。第8週から第13週は沖縄の健康課題を医療、公衆衛生・保健分野の変遷と北部地域及び島嶼僻地などの地域性を視点に保健看護政策を学習する。第14週と第15週は、これまでの学習から沖縄発の健康長寿、地元創成となり得る保健看護政策を担当教員全員と院生（プレゼンテーション実施）でディスカッションをし、地元根差す文化や習慣を活かした保健看護政策案について議論する。</p> | | | | | |
| 第1週 | 講義ガイダンス | 保健看護政策制度 | | 田場真由美 | |
| 第2週 | 琉球王国時代の生活と医療 | | | 赤嶺 守 | |
| 第3週 | 米国統治下の沖縄における集落公民館の活動 | | | 嘉納英明 | |
| 第4週 | 米国統治下の沖縄の公衆衛生看護政策と先駆的活動 | | | 宇座美代子 | |
| 第5週 | 沖縄戦・戦禍の体験と現在につながるトラウマの影響 | | | 田場真由美 | |
| 第6週 | 駐在保健師活動と公衆衛生看護の変遷 | | | 宇座美代子 | |
| 第7週 | 討議①：第1週から第6週までの学習を踏まえた沖縄の保健看護政策についての討論 | | | 宇座美代子、田場真由美 赤嶺 守、嘉納英明 | |
| 第8週 | 我が国の保健看護政策の変遷の中での沖縄の保健看護政策 | | | 宇座美代子 | |
| 第9週 | 沖縄の保健看護政策（1）医療分野 | | | 宇座美代子 | |
| 第10週 | 沖縄の保健看護政策（2）公衆衛生・保健分野 | | | 宇座美代子 | |
| 第11週 | 沖縄の保健看護政策（3）北部地域の課題（貧困・高齢化・過疎化） | | | 田場真由美、嘉納英明 | |
| 第12週 | 沖縄の健康課題 | | | 田場真由美 | |
| 第13週 | 島嶼僻地の健康課題と地元創成 | | | 田場真由美 | |
| 第14週 | 討議②：沖縄発 健康長寿復活に向けての保健看護政策 | | | 宇座美代子、田場真由美 | |
| 第15週 | 全体討議：第8週から第14週を踏まえた地元創成につながる保健看護政策 | | | 宇座美代子、田場真由美 嘉納英明 | |
| 4. テキスト（参考図書） | | | | | |
| <p>1. 大嶺千枝子（2020）：沖縄の看護—琉球政府の看護制度を紐解く—、那覇市、新星出版株式会社、2,000円 2. 沖縄戦・精神保健研究会（2017）：戦争とこころ—沖縄からの提言、那覇市、沖縄タイムス社、1,800円 3. 崎原盛造（2002）：健康長寿の条件：元気な沖縄の高齢者たち、東京、ワールドプランニング、3,800円 4. 角田由佳（2020）：看護サービスの経済・政策論 第2版、東京、医学書院、3,740円。 5. 野村陽子（2015）：看護制度と政策、東京、法政大学出版局、5,830円。 6. 島崎謙治（2020）：日本の医療、増補改訂版：制度と政策、東京、東京大学出版会、5,280円。</p> | | | | | |

| |
|--|
| 5. 準備学習 |
| ・指定されたテキストの熟読とプレゼンテーション資料や課題を作成する。 |
| 6. 成績評価の方法 |
| 授業への取り組み（資料の作成、プレゼンテーション、ディスカッション）およびレポートにより評価する。 授業におけるプレゼンテーション（25%） ディスカッションへの参加度（25%） レポート：討議①の授業終了時提出（10%）、討議②の授業終了時提出（20%）、全体討議の授業終了時提出（20%） |
| 7. 履修の条件 |
| 特になし |
| 8. その他 |
| |

| | | | | | |
|---|--|---|--------|---------------------------------------|---------|
| 科目番号 | 科目名 | 生体環境看護科学特論 | | 担当教員：小西清美、玉井なおみ、木村安貴、花城和彦、砂川昌範、小坂橋喜久代 | |
| 博看 004 | 科目名 (英語) | Advanced Lecture on Bio-environmental of Nursing and Sciences | | | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 1 | 後期 | 2 | 各研究室 | 各指定時間 |
| 1. 授業の概要 | | | | | |
| <p>生活環境における快、不快の外部環境の変化により生体の内部環境である自律性調節機構が働き、生命及び健康を維持している。生体内外の環境の変化を捉え、自律性調節機構を調整することは重要である。まず、(1)個体レベルでの自律性調節機構について学習し、次に外部環境は主として生活の場により構成されていることを踏まえ、(2)生活環境が生体(心身)に及ぼす影響について学習する。これらの学習を踏まえ、(3)生体内外の環境の変化及び調節機構を評価する指標の開発や科学的エビデンスに基づいた看護実践を探究する。</p> | | | | | |
| 2. 到達目標 | | | | | |
| <p>1. 生体の恒常性を維持するための知識基盤を理解する。 2. 快、不快の外部環境が生体の心身に及ぼす影響について理解する。 3. 生体環境に関する諸理論を踏まえ、科学的エビデンスに基づいた看護実践方法を構築する。</p> | | | | | |
| 3. 授業の計画と内容 | | | | | |
| <p>第1週では、特に女性を対象にした研究は月経の時期によって生体に及ぼす影響があることを主観的・生理的・他覚的指標からの評価を概説する。初回の授業を踏まえ、生体の自律性調節機構や分子・細胞レベルにおける調節機能を学習し、第6週では、人を対象とした看護研究における指標の開発について、学生自身の考察(課題レポート①)を検討する。第7週から第14週までは、臨床での看護実践として「食」「心地よいケア」「運動」が心身に及ぼす影響、及び補完代替療法が「研究」「教育」そして「実践」に繋げる看護介入を学習し、学生自身の関心のある研究課題について、科学的エビデンスに基づいた看護実践方法の構築を検討する。</p> | | | | | |
| 第1週 | ガイダンス(講義の進め方、学習方法、評価等)、 月経の時期が多重課題による課題遂行力に及ぼす影響：主観的・生理的・他覚的指標 | | | 小西清美 | |
| 第2週 | 生体の恒常性維持のための神経系・内分泌系・免疫系の相互作用：神経内分泌系の視点 | | | 花城和彦 | |
| 第3週 | 生体の恒常性維持のための神経系・内分泌系・免疫系の相互作用：免疫系(アレルギーを含む)の視点 | | | 花城和彦 | |
| 第4週 | 分子・細胞レベルにおける調節機能：植物由来の生理活性物質による生体への影響 | | | 砂川昌範 | |
| 第5週 | 分子・細胞レベルにおける調節機能：動物由来の生理活性物質による生体への影響 | | | 砂川昌範 | |
| 第6週 | 1～5週までを踏まえ、人を対象とした看護研究における指標の開発について、学生自身の考察(課題レポート①)を検討する | | | 小西清美、花城和彦 砂川昌範 | |
| 第7週 | がん治療が食に関連する感覚器に及ぼす影響 | | | 木村安貴 | |
| 第8週 | がん患者の食事摂取障害とQOLとの関係 | | | 木村安貴 | |
| 第9週 | 「心地よいケア」が自律神経に及ぼす影響 | | | 小西清美 | |
| 第10週 | がんサバイバーの運動の身体的影響：治療・予後・副作用等との関連 | | | 玉井なおみ | |
| 第11週 | がんサバイバーの運動の心理的影響：QOL・不安・自己効力感との関連 | | | 玉井なおみ | |
| 第12週 | 看護介入としての補完代替療法：研究 | | | 小坂橋喜久代 | |
| 第13週 | 看護介入としての補完代替療法：教育 | | | 小坂橋喜久代 | |
| 第14週 | 看護介入としての補完代替療法：実践 | | | 小坂橋喜久代 | |
| 第15週 | 7～14週までの学習を踏まえ、学生自身の関心のある研究課題(課題レポート②)を発表し、科学的エビデンスに基づいた看護実践方法の構築について検討する。 | | | 小西清美、玉井なおみ 木村安貴、小坂橋喜久代 | |
| 4. テキスト(参考文献) | | | | | |

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・人体の正常構造と機能：坂井建雄・河原克雅編集 日本医事新報社 2017年、19,800円 ・城ヶ端初子：新訂版 実践に生かす看護理論 19、サイエ出版、2013年、2,800円 ・加藤象二郎・大久保堯夫 編著：初学者のための生体機能の測り方、日本出版サービス、2006年、3,300円 ・小坂橋 喜久代・荒川 唱子 編著：リラクゼーション法入門 ―セルフケアから臨床実践へとつなげるホリスティックナーシング、2013年、2,640円 |
| 5. 準備学習 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を提示するので計画的に準備学習に取り組むこと |
| 6. 成績評価の方法 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・活動状況 50点（資料、プレゼンテーション、ディスカッション）、レポート課題①25点・レポート課題②25点で評価する。 |
| 7. 履修の条件 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・特になし |
| 8. その他 |
| |

| 科目番号 | 科目名 | 看護教育学特論 | | 担当教員：グレッグ美鈴、嘉手苺英子 | |
|--|-------------------------------------|---------------------------------------|--------|-------------------|---------|
| 博看 005 | 科目名 (英語) | Advanced Seminar in Nursing Education | | | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 2 | 前期 | 2 | 各研究室 | 各指定時間 |
| 1. 授業の概要 | | | | | |
| 看護教育学に関する主要な理論として、成人学習理論、省察的実践理論、変容的学習理論などを学ぶ。学生が関心のある看護教育学領域（基礎教育、継続教育、卒後教育）の現象を選択し、文献検討を行い、既習の理論と実証的研究から選択した現象を分析し言語化することで現象の理解を深める。また、選択した現象について理論とエビデンスを統合し、看護教育学における研究の課題を明らかにすることを目的とする。さらに、沖縄のケアリング文化を踏まえ看護教育学がいかに体系化できるかを探究する。 | | | | | |
| 2. 到達目標 | | | | | |
| 1. 看護教育学に関する諸理論を説明する。 2. 沖縄のケアリング文化を踏まえた看護教育学の体系化を提案する。 3. 自分が関心のある看護教育学領域の現象を理論と実証的研究を基に具体的に述べる。 4. 選択した1つの現象について理論とエビデンスを統合し、看護教育学における研究の課題を提示する。 | | | | | |
| 3. 授業の計画と内容 | | | | | |
| 第1週 | オリエンテーション、看護学教育、看護教育学の定義 | | | グレッグ美鈴 | |
| 第2週 | 看護教育学に関する理論の理解1：行動学習理論、認知学習理論 | | | グレッグ美鈴 | |
| 第3週 | 看護教育学に関する理論の理解2：状況的学習論 | | | グレッグ美鈴 | |
| 第4週 | 看護教育学に関する理論の理解3：成人学習理論 | | | グレッグ美鈴 | |
| 第5週 | 看護教育学に関する理論の理解4：省察的実践理論 | | | グレッグ美鈴 | |
| 第6週 | 看護教育学に関する理論の理解5：経験学習理論 | | | グレッグ美鈴 | |
| 第7週 | 看護教育学に関する理論の理解6：変容的学習理論 | | | グレッグ美鈴 | |
| 第8週 | 沖縄のケアリング文化を踏まえた看護教育学の体系化1 | | | グレッグ美鈴 嘉手苺英子 | |
| 第9週 | 沖縄のケアリング文化を踏まえた看護教育学の体系化2 | | | グレッグ美鈴 嘉手苺英子 | |
| 第10週 | 看護基礎教育に関して自身の関心のある現象の探究（理論と実証的研究から） | | | グレッグ美鈴 | |
| 第11週 | 看護継続教育に関して自身の関心のある現象の探究（理論と実証的研究から） | | | グレッグ美鈴 | |
| 第12週 | 看護卒後教育に関して自身の関心のある現象の探究（理論と実証的研究から） | | | グレッグ美鈴 | |
| 第13週 | 理論とエビデンスの統合 | | | グレッグ美鈴 | |
| 第14週 | 看護教育学における研究の課題 | | | グレッグ美鈴 | |
| 第15週 | まとめ | | | グレッグ美鈴 | |
| 4. テキスト | | | | | |
| テキストは使用しない。参考文献は、随時提示する。 | | | | | |
| 5. 準備学習 | | | | | |
| プレゼンテーションの資料を準備し、授業の1週間前までに配布する。 | | | | | |
| 6. 成績評価の方法 | | | | | |
| プレゼンテーション 30点（評価視点：資料の適切性、理解度、説明の明快性）、ディスカッションへの貢献度 20点（評価視点：テーマを深める多角的発言）、レポート 50点（評価視点：理論とエビデンスの統合の適切性、研究の課題の明瞭性） | | | | | |
| 7. 履修の条件 | | | | | |
| 特になし。 | | | | | |
| 8. その他 | | | | | |
| | | | | | |